

労協連だより

季節外れの台風に2度も見舞われた日本列島。我が人生の光源、夏の球音が響き渡る中、前号で記した地域福祉事業所づくりへの「瀬戸際の挑戦」がいくつかの地域で始まった。

約15年前、リサイクル事業と障害者の就労創出で一世を風靡した群馬事業団（旧玉村）。経営危機を乗り越え、何とか収支改善に向かう中、地域での存在価値を見出すための取り組みとして、地域福祉事業所づくりの第一歩、ヘルパー講座修了生の集まりを催した。講座終了から1年を経ての集まりは、意外な結集力と可能性をかもし出した。テンポよく次の集まりへと歩みを進めようとしている。同様に、山口・光でも講座修了生の集まりが企画され、第一歩が始まるようとしている。両事業団は、総会明けに理事の学習会を経ての歩みであるが、いくつか共通の傾向をもっている。

つまり、組織の未来像に確信や展望が見出せていない訳ではないが、そこへどうたどり着くのか、というプロセスを描くことなく足踏みしている傾向であり、いま一つは、組織としての「責任」を仕事おこしに参加しようとする市民に対して、過度に負おうとしている点だ。結果「まず始めてみる」という未知への挑戦の姿勢が薄らいできた、それにかみ合わない連合会の提起、の繰り返しだったのかもしれない。実際の仕事おこしの格闘に身を投じ、経験を語り尽くし、実感を共有することから、ようやく実態と

古村伸宏（日本労協連・事務局長）
推進のためのツボが見えてきたように思う。

数年ぶり「専務事務局長会議（7/12）」を再開した。「瀬戸際の挑戦」を実践的に交流し、精神的にも支えあうニューリーダー群の形成が大きな目的であり、年7回予定されている。今回は、前日のセンター事業団主催の「地域福祉事業所戦略会議」で示された、数多くの成功・失敗の足跡と、その上に現れている可能性・展望、その推進主体として次々に登場する伸びやかな人々とその発想・・・を受けて、実践的な議論が開始できたように思う。実践的な議論とは、今の自分（たち）の水準や悩みを、取り繕わずさらけ出すことから始まると思う。その意味できっと時間がかかる作業だと覚悟しながら臨んだわけだが、第1回では女性専務陣の発言が全体をリードし、その取っ掛かりがつかめたように思う。センターの水準には程遠い実態かもしれないが、「仕事おこし」「協同労働」への真摯な態度と実直な挑戦が、必ずや本物を生み出すと確信している。

船橋では、数年越しの苦労の末、地域福祉事業所の結団式が7/14に行われた。8/1事業開始を前に、みんなで意見をぶつけ合っけてスタートの思い（設立趣意書）を纏め上げた。ここには今別の仕事で労協に参加している組合員も加わっている。それぞれがそれぞれの人生の中で、この事業所が目指す夢を、生き暮らす地域の未来に重ねて出航する。「希望を未来に紡ぐ」という、しめの言葉が思いを代表しているようだ。全国で既に先行してい

る地域福祉事業所も、もう1度原点や目標の鮮明化、共有の作業をへて、飛躍を期す時だ。

この間、「協同労働の協同組合」を目指す連合会会員の中で、反対の方向や異なった価値観の「私物化」に類する動きも見え隠れしている。9/28には法制化を決定付けるべく、

最大級の集会在千代田公会堂で予定されている。協同労働への期待・関心が高まれば高まるほど、「協同労働とは何か」を実践し指し示す存在が、神々しい光を放つことになる。その光こそが「協同」の力であり、それを求めてきた歴史の力だ。心して歴史へ立ち向かおう。

研究所たより 研究所たより

総会が終わり、新しい年度が始まりました。今年度は協同労働法の制定運動のいよいよ成果を出す年であり、11月には協同集會も控えています。

総会の中では協同総研への要望として研究会など研究活動の充実が多く挙げられています。多くの課題が目白押しになっている中で、いかに「協同労働」の研究所として必要な研究を続けていけるかが問われています。今期は、小規模の学習会やセミナーも含め、数多くの研究会を組織していきたいと考えています。

協同集會の準備が徐々に進み始めています。今年は九州と千葉の2箇所で開催するということで、本当に実現可能なのが不安な面もありますが、九州・千葉とも現地での準備が始まりました。協同総研は基本的に千葉集會の事務局を担い、九州はセンター事業団九州北事業本部が担当することになります。協同集會のWebサイトを開設しましたので、時々チェックしていただくと幸いです (<http://kyodo-net.roukyou.gr.jp>)。雇用不安の拡大、地域の活性化問題、食の安全問題、公共事業のあり方など、地域をベースに

した新しいテーマを取り上げていく集會にしていきたいと思います。

当研究所の会員で米国ワシントン州のウエスタン・ワシントン大学教授(文化人類学)のロバート・C・マーシャルさんが8月11日より来日されます。12月まで滞在して、神奈川県高齢者生活協同組合の活動に参加しながら調査を行うそうです。マーシャルさんは日本のワーカーズコープを研究テーマとしており、1994年にも長期滞在をして、センター事業団やエコテックなどいくつかの事業所の仕事に実際に参加されています。日本語にも堪能な方なので、会員の皆さんとの交流の機会を作りたいと考えています。

研究所のメーリングリストのシステムを変更しました。従来の@niftyのシステムですとどうしてもウイルスメールを防ぐことが難しかったため、思い切って別のMLサービスに切り替え、安全性を高めました。これで全く問題が無くなるかどうかはわかりませんが、当面はウイルス問題で悩まされることは無いでしょう。ぜひ、MLをご活用ください。

(菊地 謙)